

「急に、もの忘れがひどくなった。認知症では？」と不安げな患者さん。でも、医者には、もの忘れの内容と経過を聞いただけで、ホッとする。

65歳のM子さん。「昨日の夜、3時間ほどの記憶がない」と訴える。娘の体調が急変し、救急車に乗ったことは記憶していない。気付いた時は、点滴をしている娘のベッドサイドに座っていたという。家族は、「何度説明しても、同じことを聞き返す」と話す。だが、今日のM子さんは、認知機能も正常だ。ならば、昨日のエピソードは、一過性全健忘(TGA)にちなむものかもしれない。

TGAとは、突然、新しいことを記憶できなくなる病気である。多くは数時間症状が続くだけで、24時間内に回復する。また、古い記憶はあまるので、じわじわと覚えていたことは普通に行き渡る。M子さんは、病院の受付も、買い物もしている。だが、新しいこと、例えば、娘に何が起きたか？医者にどう言われたか？誰に何を話したか？など、まったく記憶していないのである。

ただし、TGAは、うつで起きるのかわるか？脳血流の検査やMRI（磁気共鳴画

像）では、新しいことの記憶に関わる海馬に一時的な血流低下が現れることもあるという。しかし、TGAの血流低下は通常の脳血管障害とは異なるもので、いまだその発症のメカニズムは明らかではない。でも、TGAの発作を繰り返しても、脳梗塞や認知症にはなりにくいとは言えるかもしれない。

だいたいが、TGAの再発率は低いのだ。6年8カ月の間に、85%の人には再発がみられなかったという報告もある。というわけで、患者さんに、「TGAは、認知症とは違う。再発しにくい。薬もない」と説明する。それだけで、みなさん笑顔になるのではないか。つい、「ま、原因不明のままでよいかも」と思いたくまなめる。

(石黒修三三三三クリニック・脳神経

外科医 / 6/13 北國新聞掲載)